

WEST

☐ G n rat Coll ction

L14: Entry 3 of 4

File: JPAB

Jan 9, 1990

PUB-NO: JP402004707A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02004707 A

TITLE: DEPILATORY AGENT

PUBN-DATE: January 9, 1990

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TOMINAGA, NAOKI

FUNATSU, SHINICHIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SHISEIDO CO LTD

APPL-NO: JP63154621

APPL-DATE: June 24, 1988

INT-CL (IPC): A61K 7/155

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a depilatory agent, containing a thick malt syrup and a cationic surfactant, capable of readily and rapidly removing hair without requiring treatment for several weeks to several months once depilation is carried out due to depilation from hair roots and readily washed away even when sticking to clothes, etc.

CONSTITUTION: A depilatory agent containing 96.0-99.0wt.% thick malt syrnp, 0.05-0.2wt.% cationic surfactant (preferably lauryltrimethylammonium chloride) and further a thickener, humectant, lower alcohol, etc., within the range without impairing effects. The above-mentioned depilatory agent has high depilatory effects with simple operation. The most favorable method for use is to thinly extend the depilatory agent on the skin, etc., with a spatula, etc., so as to wrap in the hair, directly apply a nonwoven fabric, peel the fabric together with the hair and carry out physical depilation.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-4707

⑬ Int.Cl.⁹

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)1月9日

A 61 K 7/155

8314-4C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 脱毛剤

⑯ 特 願 昭63-154621

⑰ 出 願 昭63(1988)6月24日

⑱ 発 明 者 富 永 直 樹 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑲ 発 明 者 船 津 信 一 郎 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研究所内

⑳ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

明 細 書

1. 発明の名称

脱毛剤

2. 特許請求の範囲

(1)水飴及びカチオン界面活性剤を配合することを特徴とする脱毛剤。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は美容を目的に人体面の毛髪を、毛根からきれいに除去できる脱毛剤に関するものである。

[従来の技術]

毛髪を除去するにはいくつかの方法が知られている。以下挙げてみると、(i)はさみ、カミソリ等で切除する方法、(ii)毛抜きで一本一本脱毛する方法、(iii)粘着テープを添付した後接着した毛髪諸共テープを剝離する方法、(iv)電氣的に毛根を焼切する方法、(v)化学的に薬品で生えざわを溶切する方法、(vi)樹脂、ろう等を基材とする脱

毛料を塗布して固めた後、付着した毛髪諸共剝離する方法等である。

しかしながら、(i)はすぐに毛が再生するし、(ii)は時間と手間がかかりしかも一本一本の脱毛に痛みを伴い、(iii)は痛みが強くかつ毛とテープの接着が表面的であるため接着力が不十分で抜け残りが多く、(iv)は専門家を必要としかつ費用が高く、(v)は主にアルカリ金属、アルカリ土類の硫化物を使用するペースト状又はクリーム状の除毛剤を使用するものであるが、毛を抜く痛みはなくとも皮膚に刺激をあたえるおそれがある。(vi)は樹脂、ろう等は常温で固化しているため塗布時に一々加熱溶解し、さらに塗布できる温度まで放熱せねばならない、また剝離したときある程度樹脂が皮膚面に残留するので溶剤等で丹念に拭き取らなければならない。

[発明が解決しようとする課題]

本発明者らは上記事情に鑑み、鋭意研究を重ねた結果、水飴とカチオン界面活性剤とを配合すると、脱毛効果が高められ、しかも操作が簡便です

ばやく脱毛できることを見出し本発明を完成するに至った。

〔課題を解決す ための手段〕

すなわち、本発明は、水飴及びカチオン界面活性剤を配合した新規の脱毛剤を提供するものである。

以下、本発明の構成について詳述する。

本発明で用いられる水飴は通常の水飴であれば何でも良く、一般的には製造法によりいくつかに分類される。すなわち、でんぷんを酸により分解し濃縮したものを酸糖化水飴、酵素により分解し濃縮したものを酵素糖化水飴、麦芽に含有している酵素により分解濃縮したものを麦芽水飴、でんぷんを酸で糖化し乾燥したものを粉末水飴等が挙げられる。本発明においては、これらの一種または二種以上が用いられる。

本発明で用いられる水飴の配合量は、脱毛剤全量中90.0～99.5重量％が好ましく、さらに好ましくは96.0～98.0重量％である。

本発明で用いられるカチオン界面活性剤の具体

例としては、例えば、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム等のアルキルトリメチルアンモニウム塩、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム等のジアルキルジメチルアンモニウム塩、塩化ポリ(N,N'-ジメチル-3,5-メチレンピペリジニウム)、塩化セチルピリジニウム等のアルキルピリジニウム塩、アルキル四級アンモニウム塩、アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩、アルキルイソキノリニウム塩、ジアルキルモリホニウム塩、POEアルキルアミン、アルキルアミン塩、ポリアミン脂肪酸誘導体、アミルアルコール脂肪酸誘導体、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、カチオンポリマー、アクリル酸 β -N,N'-ジメチル-N-エチルアンモニオエチル塩ビニルピロリドン共重合体等が挙げられる。本発明においては、これらの一種または二種以上が用いられる。これらカチオン界面活性剤の中でもアルキル四級アンモニウム塩である塩化ラウリルトリメチルアンモニウムが使用性、脱毛効果の点で好ましい。

本発明に用いられるカチオン界面活性剤の配合量は、0.01～1重量％が好ましく、さらに好ましくは、0.05～0.2重量％である。0.01重量％より低濃度ではカチオン界面活性剤の添加効果はみられず、また1重量％より高濃度では水飴への溶解性、さらには皮膚への安全性に問題が生ずる。

本発明の脱毛剤の最も好ましい使用方法としては、脱毛剤をヘラ等で皮膚上に薄く毛髪を巻き込むように伸ばし、すぐに不織布等を貼付し毛髪諸共剝離し物理的に脱毛する方法である。

本発明において、上記した成分に加え、効果を損なわない範囲で、通常の化粧品に用いられている成分、たとえば増粘剤、保湿剤、低級アルコール等を配合することができる。

〔発明の効果〕

本発明によって得られた脱毛剤は簡便にしかもすばやく脱毛でき、また毛根から脱毛するので一度脱毛処理すると、数週間～数ヶ月は処理しなくてもよい。また、皮膚あるいは衣類に付着しても水で簡単に洗い流せるという利点がある。

〔実施例〕

次に実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれらに限定されるものではない。なお、配合量は重量％である。

実施例 1

粉末水飴	92.0
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.05
エタノール	3.0
色素	適量
紫外線吸収剤	0.1
イオン交換水	残余

上記組成の脱毛剤を上記皮膚上に薄く毛髪を巻き込むように薄く塗布し、不織布を貼付した後、すばやく剝離した。その結果、90％以上の毛髪が脱毛できた。

実施例 2

酸糖化水飴	96.0
塩化ラウリルトリメチルアンモニウム	0.01

色素	適量
紫外線吸収剤	0.1
イオン交換水	残余

上記組成の脱毛剤を上腕皮膚上に薄く毛髪を巻き込むように薄く塗布し、不織布を貼付した後、すばやく剥離した。その結果、90%以上の毛髪が脱毛できた。

実施例3

酵素糖化水飴	95.0
塩化ジステアリル	
ジメチルアンモニウム	0.5
グリセリン	3.0
香料	0.1
色素	適量
紫外線吸収剤	0.1
イオン交換水	残余

上記組成の脱毛剤をすね部皮膚表面に毛を巻き込むように薄く伸ばし、不織布を貼付したのちすばやく剥離し脱毛した。その結果、90~95%の毛

が脱毛できた。

実施例4

麦芽水飴	93.0
塩化ベンゼトニウム	1.0
ポリエチレングリコール	
(分子量 400)	2.0
1,3-ブチレングリコール	1.5
香料	0.1
色素	適量
紫外線吸収剤	0.5
イオン交換水	残余

上記組成の脱毛剤を脇部皮膚表面に毛を巻き込むように薄く伸ばし、不織布を貼付したのちすばやく剥離し脱毛した。その結果、90%以上の毛が脱毛できた。

特許出願人 株式会社 資生堂